

とんぼりニュース

道頓堀商店会報
http://www.dotonbori.or.jp

道頓堀商店会事務局
〒542-0071 大阪市中央区道頓堀1-7-21 中座くいだおれビルB1
TEL.06-6211-4542 FAX.06-6211-9764
発行人：上山 勝也

2017年
11月号

Vol.145

2017年 10月27日
発行

11・12月の興行ご案内
大阪松竹座

シネマ歌舞伎「め組の喧嘩」

十八世中村勘三郎が心血を注ぎ、江戸の芝居小屋を現代に復活させた「平成中村座」。

東京浅草で行われた初のロングラン公演の最後を飾る2017年5月の公演で、勘三郎は初役となる、め組辰五郎に渾身の思いで挑みました。まさに「火事と喧嘩は江戸の華！」を体現するような、舞台のエネルギーと客席の興奮が一体となった芝居小屋が大スクリーンに蘇ります。(あすぷり)

町火消の「め組」鷹頭の辰五郎(中村勘三郎)は、品川の盛り場で、喧嘩っ早い鷲たちと相撲力士たちの小競り合いを収める。が、武家のお抱えの力士たちより鷲は格下だと言いつた、怒りを胸の内に押し殺す。面子を汚された辰五郎は、兄貴分から諭されるも、密かに仕返しを決意。愛する妻と幼い子供に別れを告げ、命知らずの鷲たちを率いて、力士たちとの真剣勝負に乗り込んでいく！



11月25日(土)より全国公開 上映館：なんばパークスシネマ他
出演：中村勘三郎 中村扇雀 中村橋之助 中村錦之助 中村勘九郎
中村萬太郎 坂東新悟 中村虎之介 中村歌女之丞 市川男女蔵
片岡亀蔵 市村萬次郎 坂東彦三郎 中村梅玉
(出演者名は2017年当時のもの)
料金：一般料金2100円 学生小人1500円
パークスシネマ大阪松竹座では前売ムビチケット1800円、各プレイガイドでは特別鑑賞券1800円を販売

道頓堀ZAZA
娯楽の最高潮！「ああ懐かしの活動大写真」

弁士、楽士、映像の三つがひとつになって、ライブ感覚でつくりあげる独創的で魅力的な体験。それが無声映画の世界です。

今回の上映作品は「懐の母」と荒木伊賀越三十六番斬り」の豪華二本立て。さらに今回特別企画として、林幸治郎によるトークショー「チャンバラ映画と和洋合奏」：無声映画最後の楽団長大野政夫氏との出会いと思い出を語り、無声映画の伴奏のスリルと醍醐味を解説します。

11月10日(金) 18時30分
出演：旭堂南陵、林幸治郎と星空楽団
料金：3500円
お問合せ：東西屋06-6764-1984

道頓堀SUPER歌謡劇場「心に響く!!昭和の流行歌」

11月21日(火)13時・16時30分(各公演で部歌謡内容が変わる場合があります)
出演：中村泰士(プロデュース)
浅田あつこ 塩乃華織 エンジュ
五条哲也 新地物語
料金：2500円
お問合せ：090-1588-6600
(道頓堀SUPER歌謡劇場実行委員会)



なにわ役者祭 VOI.6

第一部 名作喜劇「えくぼ」 第一部 年忘れバラエティショー
12月1日(金)13時・18時・2日(土)13時・18時・3日(日)12時・17時
出演：新島愛朗 曾我廼家寛太郎 山口智恵 大原ゆう ミヤ蝶子 有希晃
功刀明 宮俊一 森川隆士 宮崎げんき 立川貴博 鈴峯ゆい
藤井真理子 中谷梨乃 徳田恵美 橋本隆志 植栗芳樹
料金：5000円
お問合せ：居酒屋「香」なにわ役者祭係
06-6633-1878(16時~22時)
チケット：090-18517-0537 水口



道頓堀リバーフェスティバル「道頓堀川面舞台」 雨にもめげず、会場変更して開催!

10月21日の「道頓堀川面舞台」は、台風接近のため、会場を「道頓堀ZAZA」に変更して開催されました。越前屋俵太さんの歌わない歌謡ショー(大爆笑でした!)から始まったステージでは、予定通りの番組で様々なエンターテイメントが繰り広げられました。急な会場変更となったため、入場者はのべ24名とやや少なかつたものの、濃密な1日となりました。

OSK日本歌劇団OG、桜花昇ほる大咲せり花、妃那マリカによるレビューショー。歌もダンスもたっぷり魅せます。



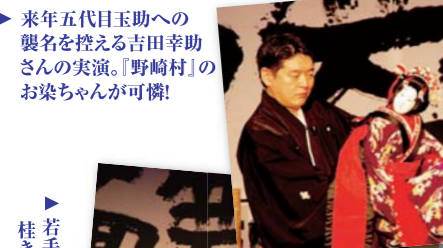
▲善竹隆司さん、善竹隆平さん、上吉川徹さんによる大感流狂言「棒縛」。

▲山村友五郎さんによる「堺住吉・竹に雀」と南地大和屋へらへら踊り。

▲来年五代目玉助への襲名を控える吉田幸助さんの実演。「野崎村」のお染ちゃんが可憐!

▲若手落語家による大喜利。桂きん枝さんも登場で、叩いてかぶってジャンケンポン!

▲22日のジャズフェスティバルも屋内となりましたが、どのバンドも熱気マンマンのステージでした。



11月7日 火曜日
オーナー部会を開催します。

オーナー部会では、商店会に風俗店や客引きも含めた悪質なテナントを入居させないため、オーナー間の連携を強めたいと考えています。また、オーナーだけでなく商店会会員の皆様との親睦を深め、商店会の健全化や賑わいを盛んにする活動も行っています。今回のオーナー部会は、大阪市より客引き、キャッチ等についての現状報告とその対策についてのお話、中央消防署によるAED(自動体外式除細動器)の説明と実施訓練を企画しています。その後、おいしい焼肉を味わいながら、大いに歓談して、親睦をはかっていたきたいと思います。

お忙しいこと存じますが、左記の日程で開催しますので、できるだけ多くの会員の皆様にご参加いただけますよう、よろしくお願ひします。

11月7日(火) 16時
場所：道頓堀みつる(道頓堀1-15-18)
会費：お一人7000円
(当日キャンセルの場合は、全額いただきます)
※ご出席の方は、11月2日(木)までに商店会事務局にお知らせください。
TEL:06-6211-4542 FAX:06-6211-9764

2017年 11月の行事予定

- 7(火) 平成29年第2回オーナー部会 16:00〜道頓堀みつる
- 8(水) 中央商連常任理事会 14:00〜河原センタービル
- 10(金) 四商店会合同ハトリール(予定) 17:00〜戎橋交番前
- 18(土) 福娘選出審査会 10:00〜17:30コブタホール
- 21(火) とんぼりリバーウォーク賑わい創出連絡会 10:00〜スパタカ
- 24(金) 四商店会合同ハトリール(予定) 17:00〜戎橋交番前
- 29(水) 11月度定例役員会 14:00〜事務局

第3回店長会が開催されました。

商店会店舗間の情報交換、交流によるネットワークづくりなどの協力関係が生まれることを期待して、第3回店長会が10月12日(木)に開催され、24名の参加がありました。会場は「はり重道頓堀店」で、名物のすき焼き丼に舌鼓を打ちながら、和やかに進められました。各自一言の自己紹介をした後は、隣同士でも初めて顔を合わせる人たちも多いのか、名刺交換の場面もひんぱんに見受けられました。今回は、親睦を深めることが目的で、LINEネットワークを築くことにしました。今後は会を重ねて、具体的な活動などについて話し合っていく予定です。

また、親睦のボウリング大会(11月16日(木))も予定しており、後日案内をお配りします。どうぞご参加ください。



時の人・インタビュー

人のいるところには物語がある。想像力で聴かせる講談の魅力。

朗々とした声で歴史物語を聴かせる講談。旭堂南海師匠は講談での活躍はもちろん、大衆芸能全般に造詣が深く、バイオリンと共演する「書生節」など珍しい芸も披露する。また軽妙な文章は新聞掲載でも人気を博し、多方面で活躍中です。骨太な芸風にはにかむような笑顔が素敵な南海師匠に講談の魅力についてうかがいました。(聞き手 中田真弥子)



プロフィール

旭堂南海 (きくどうなんかい)

1964(昭和39)年生まれ。大阪大学文学部卒業。1989年三代目旭堂南陵に入門。1996年「大阪府芸術劇場奨励新人」。1998年「咲くやこの花賞」受賞。現在、出身の加古川市の観光大使を務める。

のもあるけれど……。

山もあれば、どっしりも谷もあるのでも聴かせ方ですね。――芸能の街でもある道頓堀をテーマに新作をという声も聞きますが、安井道頓をテーマにしては、と言われますが、出自の謎が多くてなかなか難しいですね。脚色はしますが、講談は歴史事実が大事ですから。でも講談は切り取りかた次第です。例えば、道頓堀川に架かる橋戎橋や太左衛門橋、この上をいろいろな人が人生模様を描いて交差していますが、橋を渡るそれぞれの人の物語を語っていく、なんていうのも面白いかもしれませんね。

◆第10回講談セミナー

続き読みが楽しめるー 11月11日(土) 開演14時 天満橋ドーンセンター4階 大会議室3 第一部「太閤記(おやま話)」 第二部「美濃斎藤家攻略・墨俣一夜城」 料金：2000円(フリエントCD付き) お問合せ：http://www.welovekoudan.com (上方講談 私設応援隊)



▲東京の上野広小路亭にて。東京の講談は女性が多いのだとか。

のとは違う。音曲も入らず、素話のみ。芸能として成立したと言われるのは江戸時代ですが、起源をたどると鎌倉の頃にはあったのではないかとされています。歌舞伎の人気演目「勧進帳」の「山伏問答」も講談が元になっています。歴史をどんな風に切り取って聴かせるか。人のいるところには物語がある。それを想像して聴いてほしいのです。

学校の公演では、「ごうごう人」を思い浮かべた。俳優さんで言うところの誰か。想像してもらったりする。知らない俳優さんを言われたりもしますが(笑)

「これからの講談に必要なと感じていることはありますか？」

様々な芸能に影響を与えた講談ですが、頑ななところがあって、形を変えなかった。テレビの時代になるとこの芸は時間がかかりすぎるんですね。例えば落語は小噺や大喜利など時間の短い芸でテレビに適したやり方を工夫した。浜村淳さんのように映画解説を講談風に語るとい

学生時代から大衆芸能全般に興味をお持ちだったとか。なぜその中から講談を選ばれたのでしょうか。

小沢昭二さんの「日本の放浪芸」という消えゆく大道芸を採録したレコードがあって、講談も紹介されていました。1970年代にすでに消えゆく存在だったのです。

のちに師匠となる三代目南陵師匠が「南陵会」で桃川燕雄という東京の講談師の思い出話をされていたんです。

安藤鶴夫の直木賞受賞作『巷談本牧亭』のモデルになった方なのですが、とても貧しくて、押入れのような小さな部屋に住んでいたとか。

その方が大阪の舞台に出る時は、お父さんの二代目南陵師匠に挨拶に来られるんだそうです。有名なお店の佃煮なんかをほんのちよつとだけ、お店の人に分けてもらったのを土産にして……。

社会のしがらみを捨てて、芸道のが道を行くという生き方に惹かれたんですね。そして、僕はとにかく働きたくな



▲上方講談では釈台に張り扇(はりおうぎ)と拍子木を使う

かった(笑)。世の中はバブルでしたから、きつと良い就職先もあったんですけど……。

――大阪大学を卒業されてからいつから、周りは驚かれましたか。

講談の魅力とはなんですか。

講談はフィクションではなくて「実録」。事件を脚色して、見てきたように道で話すことから始まりました。大塩平八郎の乱の時は三日後にはもう講談師が話していたというくらいスピード感のある芸なんです。

釈台(見台)に台本を置いて読んでいたからでしょうか、講談は「語る」ではなくて、今でも読む。「落語」のように登場人物になりきるとい

道頓堀 街づくり情報 大人が楽しめる街、選んでもらえる街でありたい。

ミニミではそれぞれの商店街が全く違った個性を持っています。道頓堀川を挟んで向かい側、『宗右衛門町ブルース』で全国に名前が知られる宗右衛門町。元々花街だった宗右衛門町は、大人が楽しめる『粋』な文化が受け継がれています。その特性を生かした商店街づくりについて、宗右衛門町商店街振興組合・高見幸事務局長におうかがいしました。



▲ネオンきらめく宗右衛門町入り口。



▲情緒ある石畳の道

◆街の歴史と景観 宗右衛門町の街の成り立ちについてお聞かせください。

江戸時代から花街として発展してきた街です。道頓堀に五座があった時代には、売れっ子役者の家族や親戚が宗右衛門町で店を持つこともあったようです。南地大和屋さんのような料亭があって、芸者さんがいて、その芸者さんが料理屋さんを始めたり……ということも多かったようです。

様相が変わってきたのはバブル経済のころから。新規参入があったり、代替わりのタイミングでテナントビルに建て代わったりということが多かったですね。

振興組合にしようとした経緯はどんなことだったのでしょうか。「石畳の道」「電線地中化」などの関係は?

道路の美装化、つまり「石畳の道」の復活が、当商店街の願いであり、長年の計画でした。

この道路美装化の計画に対して、まちづくりや都市計画の専門家たちから「電線地中化も同時に!」とのアドバイスをいただき、大阪府関係部局との交渉が行われました。当時、関淳市長は「商店街の皆さんの思いを大阪市は応援します」と約束してもらって、「一筆に話が進んだ」と記憶しています。これだけの大工事ですので、助成金や

大きな借入金が必要で、商店会組織もきちんとならなければならぬ。そこで、この機会に振興組合の組織にし、さまざまなルール作りにも手を付けていきました。計画当初から言うところ、10年くらいかかっていますが、2013年に石畳の道は完成しました。



▲「石畳の道」完成披露のテープカット

◆街の文化 他の街にはない様々な行事をされていますか。

節分の厄除けのお化けは、芸者さんやホステスさんが仮装する行事です。元々、お店ごとに行われていたもので、その店の常連さんや目撃者が「お化け」の費用などを支援していましたが、時代も変わり、そのようなお化けもなくなり、商店街でのイベントで積極的に継承していくことになりました。



▲様々な仮装で厄払い

▲お餅の振舞も

夏祭りでは相合橋に舞台をつくり、いろいろな芸能を披露していただきます。山村友五郎さんは「上方舞も、元々、まちで生まれた庶民の文化で、それがお座敷に呼ばれて今のようになったのだから……」と、毎年の夏祭りでも舞っていたにいます。



▲多くの観客を前に橋の上で舞う山村友五郎さん

日本舞踊の「五耀會」の皆様は会のPRに、文楽の二代目吉田玉勇さんはご自身の襲名の際に、「せむ宗右衛門町でバナーフラッグの掲出を」とお申し出いただきました。このように、芸能人や文化人なども、プライベートを含め、様々な縁を持つ街です。春の大相撲大阪場所の場所中には、多くの関取も支援者の皆さんとお食事などに宗右衛門町へお越しになります。平成28年からは、この大阪場所の開催をPRする「触れ太鼓」に、宗右衛門町にも来ていただいています。こういった「谷町」文化というものがつながり大切になっていますね。

◆街の特性 インバウンド需要が拡大しているミニミの街ですが……。

宗右衛門町はインバウンドの影響をほとんど受けていないんです。個人の店が多くて、外国語などの対応が難しい。割烹でこれはこういう料理です、と説明せずに出すというわけにもいきません……。



▲宗右衛門町商店街振興組合 高見幸事務局長

◆これからの宗右衛門町 「さすが宗右衛門町」来て良かったと言ってもらえる付加価値のある街でありたいですね。高級なお店ばかりと思われがちですが、そんなことはない。上を見ればキリがないけど笑。「これからの予算で」とお店に相談すればその範囲でおいしいものを出してくれそうです。同じ飲食街でも北新地は接待向き。宗右衛門町はポケットマネーで「軒目」という方も多い。「選んでもらえる街」でいたいですね。

逆に世界共通で商品がはつきりしているバーは大変な人気のお店もあります。日本のウイスキーも人気です。滞在中は毎日来る方もいるそうです。

◆街の課題

やはり治安が課題です。いろんな店が出るのは結構なことですが。商売人ですから儲けが第1です。しかし、モラルが大切です。家族連れに風俗の客引きが声をかけたり、子供の目に付きやすい所にそういったお店があるのは望ましくないと、思います。ある店の前には人をよその店に誘うような客引きは論外でしょう。それぞれの店が持つべきプライドがなさ過ぎです。悪質な客引き、はみ出し看板などは、取り締りのパトロールを強化しているところですね。